

## プレス・リリース



国際芸術センター青森アーティスト・イン・レジデンス・プログラム2006 / 秋

### 「SUSPENDED 浮景」展 開催のご案内

国際芸術センター青森(ACAC)は、アーティスト・イン・レジデンスを中心プログラムとした施設として、2001年12月に開館し、年に2回、春と秋に国内外からアーティストを招聘するアーティスト・イン・レジデンスを開催してまいりました。レジデンス・プログラムでは、現代芸術の分野で活躍するアーティストを招聘し、期間中の滞在制作、展覧会、またワークショップやレクチャーといった交流イベントを開催いたします。春の指名制に対し、秋は全世界からの申請を受け付ける公募制をとり、若手アーティストを中心にプログラムを進めて参りました。

秋の公募制のレジデンスとしては5回目(レジデンスとしては通算11回目)となります。2006年秋のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムでは、公募により決定された国内外のアーティスト4名を招聘いたします。

今回のテーマは、「サスペンデッド(吊るす、浮遊するから、宙ぶらりんの気持ちにさせておく、の意)」。

答えではなく問いを提示し、時に見るものの思考や判断を宙ぶらりんの状態にしてしまうアートの開かれた可能性と魅力について考えていきたいと思っております。

つきましては、ご高覧、ご宣伝のほどよろしくお願い申し上げます。

【事業名】 国際芸術センター青森アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2006 / 秋  
「SUSPENDED 浮景」

【展覧会】 2006年10月28日(土)～11月26日(日) 午前10時～午後7時 会期中無休、入場無料

【滞在】 9月15日(金)～12月1日(金)

#### 【参加アーティスト】

武内 貴子(たけうち・たかこ) <福岡県在住>  
山口 紀子(やまぐち・のりこ) <東京都住>  
Izabela Jadach(イザベラ・ヤダッハ) <ポーランド>  
Tatiana Preuss(タチアナ・プロイス) <ドイツ>

【関連イベント】 1) スタジオ公開 10月8日(日)  
(予定) 2) アーティスト・トーク 10月28日(土)、11月26日(日)(アーティストによる作品解説)  
3) トーク・セッション 11月12日(日)武内貴子+タチアナ・プロイス+担当学芸員  
11月19日(土)山口紀子+イザベラ・ヤダッハ+担当学芸員  
4) ワークショップ 11月25日(土)イザベラ・ヤダッハによる  
5) ギャラリー・ツアー 11月4日(土)、18日(土)学芸員による作品解説

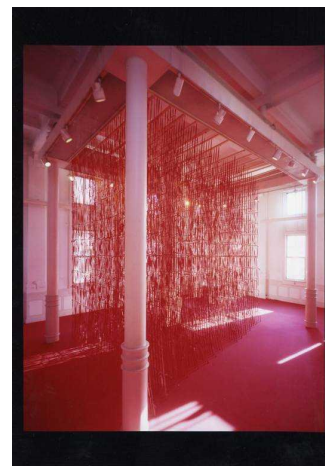
【お問い合わせ】 国際芸術センター青森 〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6  
TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201 担当:近藤 yukikondo@acac-aomori.jp

## 【参加アーティスト】

武内 貴子(たけうち・たかこ) [日本]

1979年福岡生まれ。2002年福岡教育大学小学校教員養成課程美術専修卒業、2004年福岡教育大学大学院教育研究科(立体構成デザイン領域)修了。生活の中で行ってきた「結ぶ」という単純行為と、「契りを結ぶ」「縁を結ぶ」などのように、そこに込められた意味に着目。和紙を思わせる布や紐などを結びつなげていったインスタレーションを展開。また、その「結ぶ」プロセスをも重視する。ACACでは雪のかまくらをモチーフとした構造物を制作。福岡アジア美術館「アジア楽市楽座・リターンズ」参加ほか。

<Through of the knots(結び目を通して)>2005



山口 紀子(やまぐち・のりこ) [日本]

1972年東京生まれ。1994年東京芸術大学美術学部工芸科卒業、1996年東京芸術大学大学院美術研究科修了。紙を縫うという行為を表現方法として、偶然性を意識的に作品に反映した制作を追究。和紙、紙紐などの素材を、縫いながら繋げていったものを、Aギャラリーの特異な空間に設置するインスタレーションを提案。平塚市美術館「かご展」参加(2004年)ほか。

<Evocative(喚起する)>2006



Izabela Jadach(イザベラ・ヤダッハ) [ポーランド]

1969年ポーランド、シュチェチン生まれ。1989年シュチェチン・メディカル・カレッジ卒業、2002年UCLA陶芸科修了。身体の物理的な空間に注目した彫像を制作。実際の身体を粘土でかたどって形作られた人体像は、皮膚のみの空っぽの身体を思わせる。

<Self-portrait as acrobat(アクロバットとしての自画像)>2005



Izabela Jadach  
"Self-portrait as acrobat", 2005  
White clay  
119 x 65 x 45 cm

Tatiana Preuss(タチアナ・プロイス) [ドイツ]

1978年ドイツ、ハノーファー生まれ。1998年ハノーファー大学、哲学・ロマンス言語学科修了。音、イメージを使って象徴的な物語を描きたい。壁画や描かれたパネルを重ね、通り抜けることができる絵画のプランを提示。同時にWSで参加者から音を集め、パフォーマンスを行う。ドイツ国内のアート・フェスティバルに多数参加。

<La Lagone>2005

